

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	高齢者にやさしい住宅改良促進事業	会計	一般会計	事業No.	208	施策順No.	35-019
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-4-14-13		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	6	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	住宅改良の必要性のある低所得の独居・高齢者世帯						A十分達成した Bどちらかといえれば達成した Cどちらかといえればできてない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	独居・高齢者世帯で住宅改良の必要がある者の数		4	2	2	2		
	意図	できる限り要介護状態になることなく、または要介護状態が悪化することなく健康で生き生きとした在宅生活を送る							
対象をどう変えるか	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	利用率	補助を受けた人/住宅改良の必要のある者×100	25	75	50	50	50	50	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	補助金は使い切れたが、利用者は一人であり、目標数は下回った。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	住宅改良の必要のある低所得の高齢者に住宅改良に要する費用を補助する。 対象世帯:次のア及びイのいずれにも満たす世帯。 ア 65歳以上の高齢者であって、介護保険第19条の規定により要介護若しくは要支援の認定を受けた者、若しくは身体障害者(障害者手帳1～3級所持者)又は市長において支援が必要と認める者(以下「補助対象者」という。)のいる世帯。 イ 前年の所得税額の合算額が8万円以下の世帯。 補助対象限度額:70万円と住宅改良に要する経費とを比較していずれか少ない額の10分の9の額。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	住宅改良に要する費用の補助。 補助金交付要綱を作成する。	補助件数	1件
23年度実施計画	新要綱に基づき適正に交付する。	補助件数	1件

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金		315	315	315	
	起債					
	その他					
一般財源		315	315	315		
計 (A)		630	630	630		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間			20			
人件費計 (B)			22			
トータルコスト A+B			652			

(県) 高齢者にやさしい住宅改良促進事業補助金(1/2)

4 事業に対する市民や議会の意見

なし

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	安心していきいき暮らせる	施策の成果指標又はムトス指標	安心して暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	要綱を分かりやすく作り直し、より適切な交付に努めた。		
	後期に向けた課題	要綱に基づいて必要な人に交付する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	在宅福祉サービス一覧表に載せて、事業者連絡会で配布し、ケアマネージャーに必要性の高い方を紹介してもらった。		
	後期に向けた課題	予算に制限があるため、より必要性の高い方の見極めに努める。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	補助金の事業であり予算は決まっている。		
	後期に向けた課題	補助金の事業でありコスト削減はできない。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	利用者には経費の一部を負担してもらっている。		
	後期に向けた課題	利用者には経費の一部を負担してもらおう。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	ケアマネージャーに必要な方を紹介してもらった。 行政の役割として、事業者連絡会で制度説明、要綱を作成し直し、事業内容を分かりやすくした。		
	後期に向けた課題	さらに充実した制度にできるように検討、改善をしていく。 予算の拡充、財源の確保(県費補助)		
全体を通じて	4年間の振り返り	事業内容が曖昧でとても分かりにくかったため、要綱を作成し直し、より適切な交付が出来るように努めた。		
	後期に向けた課題	県、市の要綱に基づいて適切に交付していく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--